

2021年2月22日(月曜日)

進藤榮一(筑波大学名誉教授・国際アジア共同体学会会長)

# ポスト・コロナに生きる日本の道

## 一日米機軸からユーラシア統合へ

# 細菌パンデミック渦を生むもの

## — 百年に一度の「人類史的災厄」の原因 —

- ▶ 三つの要因
- ▶ **1) グローバル化の波**
  - ▶ 2 1 世紀第三のグローバリズム
- ▶ **2) 超長期にわたる戦争**
- ▶ **3) おびただしい地球環境破壊**

# 黒死病と「中世の秋」

## 14世紀中葉以降の黒死病ーホイジンガ「中世の秋」

1) 欧州人口の3割、3千万人死亡。古典『デカメロン』  
と「メメント・モリ(死を想え)」

2) 地中海貿易、モンゴルやアフリカからペスト菌流入。

3) 英仏王朝間の百年戦争(1337～1453年)

4) 都市農村の荒廃、中世封建制と神聖ローマ帝国の衰退

# 17世紀ペスト蔓延、「パクス・ブリタニカ」へ

4

ヨーロッパ「中世の冬」から「近代の春」へ

- 1) スペイン王国による新大陸侵略と、マラリア蔓延、おびただしい環境破壊  
国際法学の始祖ヴィトリア、万国法提案
- 2) 欧州諸王朝間の「30年戦争(1618～48年)」; 国土と環境の荒廃  
ウエストファリア講和(1648年)以後、なおも三次の蘭英戦争(1652～54  
65～67、72～74年)、英国の海洋支配へ
- 3) 遠洋海洋技術・戦艦の発達—近代のグローバル化(植民地争奪戦争)
- 4) ホッブス『レヴァイアサン』(1651年)「万人の万人に対する闘争」  
医務官ジョン・ロック; 立憲思想、様々な近代思想の台頭、ルソーからカントへ
- 5) 欧州諸王朝の権威没落、パクス・イスパニアの終焉から  
パクス・ブリタニカ(大英帝国による平和)へ

# スペイン風邪と「パクス・アメリカーナ」

5

1)第一次世界大戦(1914～18年)勃発

熾烈な塹壕戦、レマルク『西部戦線異常なし』

2)米国西北部・南部でペスト細菌病発症一米軍参戦、スペイン  
経由、欧州戦線伝播(1918年1月～20年12月)

3)世界人口4分の1(5億人)感染;ウエーバー、アポリネール、  
シーレが感染死。北里柴三郎の貢献。

4)ベルサイユ講和:国際連盟設立、ウイルソン大統領主導

5)20世紀国際秩序の基本型:「デモクラシーの平和」

附記:進藤博士論文『現代アメリカ外交序説ーパクス・アメリカーナの道』1974年  
世界最強海軍実現・米外交史学会初実証。『アメリカ黄昏の帝国』、『アメリカ帝国の終焉』

# 新型コロナ襲撃、「大米帝国の終焉」

6

- 1) 第二次世界大戦と米ソ冷戦、非極の反乱  
カミュ『ペスト』—植民地支配とファシズムの非条理
- 2) 冷戦終結後「21世紀の30年戦争」(1990～2020年)  
「歴史の終焉」論と「民主主義平和」論の虚妄と挫折
- 3) 大米帝国の「平和」—米軍基地800以上、核弾頭3500、原子力空母11隻、ドローン兵器群(第三次軍事革命)、産軍官複合体、民間軍事会社の隆盛
- 4) 第三次産業革命・情報革命・グローバル化—カジノ金融資本主義へ  
新自由主義導入、ものづくり資本主義からの退却  
「セキュリティゼーション(株式証券化)」、全米企業収益に占める金融部門(60%)
- 6) 「デモス(民衆)のクラチア(権力)」の機能不全  
生産拠点海外移転、デトロイトの荒廃、社会政策の貧困、米国型資本主義の終焉  
貧富格差拡大、トップ0.1%:343.2%、1%:157.3%、下位90%:22.2%



# 米中新冷戦とアジア中国の興隆

7

## ー 情報産業革命とグローバル化ー

### 1) グローバル・サプライチェーンの拡張

生産工場がアジアへ、圧倒的市場の優位性

### 2) 「資本主義の終焉」論の過誤

「もう一つの資本主義」(アリギ)、「資本主義はジャンプする」

### 3) 「人口」と「空間」; オーナスからボーナスへ

「一帯一路」構想(2013年～)の世界史的意味(国際構造転換)

### 4) 中国13億 + ASEAN6億 + 華僑3億人

### 5) リーマン危機後、EU(欧州統合)の「終焉」から再生へ

# 新型コロナ(COVID-19)とは何か

## ー経済相互依存深化と地球環境温暖化ー

- 1) 「ツキジデスの罠」(アリソン)という虚構(フィクション)  
貿易連結結合度急増(1928年53・5%、50年64・4%、90年95・3%)
- 2) 戦争コストの急増:「16分の12」という修辞  
先進国は「戦争コスト」に耐えられない現実 (Costs>Benefits)
- 3) 地球温暖化の進展:熱帯固有の動植物が温帯へ  
コロナ武漢発症と蝙蝠、「コロナ戦争」原因論争
- 4) SARS(2003)、MARS(13)、エボラ・ウイルス病(14)



# グローバル複合危機をどう超えるか ー20世紀グローバルガバナンスの機能不全ー

## 1) 冷戦終結後も続く「民主化のための地域紛争」

東欧(コソボ) からアフガニスタン、イラン、イラク、リビア、シリアへ

## 2) 「帝国の軍事介入」が生む悲劇

難民の激増、テロの頻発、「北の世界」への復讐

## 3) 「自国(アメリカ)第一主義」ではなく

国際レジーム(ユネスコ、パリ協定、WHO、核軍縮、WTO?)からの脱退

## 4) 「二匹の妖怪」が世界を徘徊する

テロリズムとポピュリズム、反乱する非極、統御できない極

## 5) 「北の世界」のグローバル・ガバナンスの機能不全

「民主主義平和」論、「文明の衝突」論、「ツキジデスの罠」論の不条理

# 大逆転する世界

## 「大転換期」とポストコロナに生きる三つの基本政策転換

### 1) 2014年IMF報告の衝撃

先進G7のGDP > 後発G7のGDP

### 2) アングロアメリカ(英米)モデルの終焉

「パワーシフト」でなく「グレート・トランスフォーメーション」へ

### 4) グリーン・ニューディール戦略をつくる

CO2排出量削減が富を生む経済社会の仕組み、「脱原発」社会へ

### 5) デジタル情報社会化を推進する

「第三次産業革命」の新技术と「新しい社会」

### 6) 福祉医療重視社会化が「社会(ソサィアティ)」を復権させる

「人間の顔」をした資本主義、もしくは社会民主主義の復権へ

# 大転換期のグローバル・ガバナンス —三つの外交戦略—

- 1) 軍事安全保障から「人間の安全保障」へ  
蒙・ロ・韓・中・日「アジア・スーパーグリッド」の構築
- 2) 同盟外交システムから多国間協働システムへ  
日米行政協定改定、米国兵器“爆買い”削減
- 3) 軍拡から軍縮へ  
敵基地攻撃という「旧常態」、日朝国交正常化へ

# 「脱亜入欧」から「連欧連亜」へ ー「シルクロード都市連盟ジャパン」構想ー

- 1)「パクス・アシアーナ(アジア力の世紀)」の道  
中欧班列運航:16年1702便、20年上期5122便、  
月1000便常態化(電子部品、食料、車、医薬品)
- 2) 国家でなく都市自治体を軸に共生戦略を描く  
「一郷一品国際商品博覧会・長沙」で(湖南省と滋賀県)
- 3)コロナ渦が進めた「連欧連亜」  
都市自治体連盟ジャパンをつくる一日中韓連携  
韓中友好都市連盟

# 「そろそろ左派は外交を語るべきだ」 ーなぜ日本は「没落」(森嶋通夫)するのかー

## 1)最後にひとこと

柄谷行人に見る日本リベラル左派の貧困

「世界共和国」論と「パクス・トクガワナ」論の過誤、

「カント読みのカント知らず」、異議を唱えない言論界

## 2)徳川幕藩体制が9条の先行形態という奇説

百姓一揆発生(2809件)、琉球侵攻、シャクシャイン戦争

## 3) 構造的暴力と積極的平和という視座

ー再び「人間の安全保障」と「ニッポンの貧困」

# ポスト・コロナの世界経済—四つのシナリオ

14

## 1)世界大恐慌の再来を超える最悪シナリオ

20年経済成長率、 $-1.5\%$ 以上、米失業率、 $25\%$ 以上、1200万人

## 2)アジア新興国市場が世界経済回復を牽引

20年、アジア金融危機以来の最低水準( $5.2\%$ )以下に低下するも  
その後着実に回復、21年 $6.2\%$ に上昇。中国の成長率は21年~2  
年、再び $7\%$ 台にV字型回復、世界経済を牽引(「アジア開発銀行」報告)

## 3)途上国世界が経済危機下、累積債務増大、難民増大

## 4)EUがグリーン・ソーシャル・ニューディールを展開

一帯一路の推進により中欧協力、世界経済の新常態をつくる



# むすびに

## 一日中友好70年をどう進展させるのかー

- 1) もう一度、竹内好「方法としての中国」に学ぶ  
「アジアによって優れたヨーロッパを包み返す」の意味  
「アメリカ的生き方」を再検証する枢要性
- 2) 東アジア共同体からユーラシア統合へ  
一帯一路を日本再生の挺に、「北のシンガポール」釧路の夢
- 3) 「中国脅威論」や「一帯一路星座論」の過誤  
日中友好の井戸を掘った先人たちの「志」を継ぐ